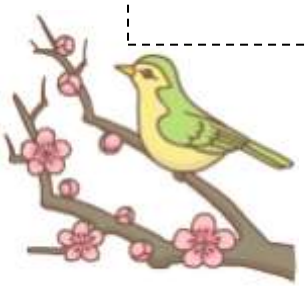
な　る　ど

八戸聖書キリスト教会

牧師：澤　田　隆　一
電話：0178- 43- 3091

ＮＯ・16
２０１３年,
１月２７日



「将来と希望を与える計画」

**「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。
主の御告げ。・・それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、
あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」**

エレミヤ２９章１１節

この預言が与えられた背景には、バビロニヤへの捕囚というユダヤ民族にとって耐え難い敗北と屈辱的な出来事がありました。そして、この預言の前に預言者エレミヤを通して与えられたみことばは『敵の地へ住み着き、その地で増えよ。敵の地の祝福のために祈れ。それがあなたがたの祝福である。』（ｴﾚﾐﾔ 29:1-7）『偽預言者に惑わされてはならない。』（ｴﾚﾐﾔ 29:8-9）『７０年後に捕囚から開放される。』（ｴﾚﾐﾔ 29:10）という内容でした。
それは、当時偽預言者のハナヌヤは『２年で捕囚から開放される』（ｴﾚﾐﾔ 28:3）と言って、人心を惑わせようとしたこととは対照的な預言でした。
ここで、ハナヌヤが預言した言葉を考えてみると「２年後の開放」とは、当時のユダヤ人達が望んでいたこと、願望そのものであったのでしょう。しかし、その預言が偽りでああったことを知った2年後のユダヤ人達の失望を想像する時、ハナヌヤが述べた言葉は虚しく、一時的な慰めとはなっても、成就しない現実を前にする時、人々は希望を失ってしったのではないでしょうか。
そんなハナヌヤの偽りの預言に対して、真の神である主から遣わされた預言者エレミヤの預言は、非常に現実に適した内容です。「家を畑を造れ」(29:5)とは、長期に渡る捕囚である覚悟を求められます。「妻をめとり、息子、娘を産め」「息子、娘にも結婚させよ」「減ってはならない」(29:6)ここでは、捕囚へ連れて行かれた者達の世代交代を告げました。息子や孫の世代でなければ故郷へ帰れないのです。そして「連れて行かれた地＝バビロニアの繁栄を祈れ」(29:7)バビロニアの繁栄こそが主のみこころであり、バビロニアの繁栄がユダヤ人達の繁栄であると告げたのです。
実際、バビロン捕囚からペルシャ王クロスの命令で開放される時代には、ユダヤ人達の多くが繁栄し、故郷へ帰ることよりもバビロンに留まる者達が多く居たと伝えられたことからも、主の祝福がユダヤ人達にしっかりとあったことの証しです。

私達の歩みの中にも、時として自分の望まない道を歩まなければならなかったり、主のみこころだと分かりにくい道もあることでしょう。しかし、一番大切なのは、主はどこにでも私達と共に居られ、遣わされた先の祝福を祈り求めることを望んでおられます。そして、どのような出来事があったとしても、主は私達に平安と将来と希望を与えて下さるお方です。
「それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」この約束を信じて今年も歩ませて頂きましょう。